

児童生徒の人間関係づくり：特別活動



全校で実施する『学級づくり』集会

『友情』を意識できる
学年の取組の足跡の掲示



年度初めに、学級づくりに重点を置いて取り組んだ例です。掲示なども活用し意識を高めています。

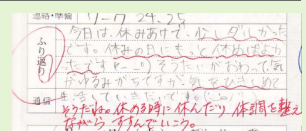
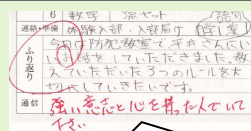
みんなで力を合わせてやり遂げた体験は、学級の温かさや活力を生み出します。

教師と生徒との人間関係づくり：生活ノートの活用



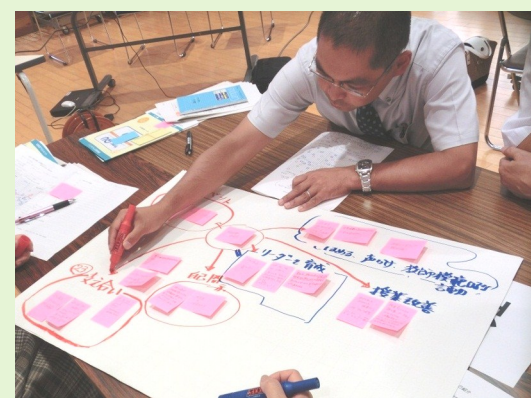
今日の目標	結果	特色	感想	結果	特色	感想
月 日 () 期・組・番				月 日 () 期・組・番		
学 年				学 年		
学 科				学 科		
学 習 時 間				学 習 時 間		
通 信				通 信		

生活ノートの振り返りは、生徒が自分自身の生活や生き方を見つめなおす機会であると同時に、教師がその子の生き方や思いを知る大きなチャンスでもあります。



コメントとして書かれた先生からの一言が、生徒にとっての大きな支えや道標になることがあります。言葉のキャッチボールで互いの信頼関係が築かれます。

児童生徒の人間関係づくり：Q-Uを活用した校内研修会



学級集団は刻々と変化します。今の状態に合った適切な対応を積極的に行うことが大切です。また、学年や学校全体で話し合うことで、効果的な方法を見つけ出すことができます。

＜取組例＞

- 気持ちよいあいさつや聞く態度を意識させよう
- ルールに沿った行動をほめて意識を高めよう
- あえて困難に挑戦し、みんなの力で乗り越えさせよう
- 理想の学級集団をつくろうと熱く語り伝えよう

児童生徒の人間関係づくり：学級活動(2)指導案

温かい人間関係を築くためには、児童生徒自身が『友達へのよりよい関わり方』に対して意欲や目標をもって取り組むことが必要です。学級活動(2)による自己決定の例です。

第4学年 学級活動(2)指導案

「ウ 望ましい人間関係の形成」の例

- 1 題材名 正しい言葉づかい「まほうの言葉を見つけよう」
- 2 本時目標 日常の言葉づかいを振り返り、みんなが気持ちよく生活していくためにどんな言葉づかいをしていけばよいか理解し、個人の目標を持つ。
- 3 学習過程

学習活動	○主な発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 ◎評価 ※手立て
1. 自分自身の普段の言葉づかいについて、アンケート結果をもとに話し合う。 <div style="border: 1px solid #000; padding: 5px; color: #000080; font-weight: bold;">アンケート等を活用し課題をつかむ。原因をさぐる。</div>	○『『普段の生活の中で、乱暴な言葉を言われていやだなあと感じたことがある』の結果の <u>ア よくある 9人</u> <u>イ ときどきある 7人</u> について、どう思いますか。』	・言葉は「人が気持ちを伝えたり、考えたりする道具」であることを話し、良い言葉や優しい言葉を多く知りたいという意欲を高めるようにしたい。 ・普段の生活の中の気づかないところで、友達が悲しい思いを感じていた言い方(言葉づかい)があることにアンケートをもとに気づかせる。
2. ビデオをもとに「まほうの言葉」について話し合う。 <div style="border: 1px solid #000; padding: 5px; text-align: center;">わたしの「まほうの言葉」を見つけよう</div>	○「まほうの言葉とは、どんな言葉のことでしょうか。」	・相手を大切にしたり言葉や「うれしいな」と感じさせる言葉のことを「まほうの言葉」と表現し、習得への意欲を高める。
・「言われてうれしかった言葉についてインタビューしたビデオを見て相手をうれしい気持ちにさせる言葉について話し合う。 ・自分の経験したまほうの言葉を話し合う。	・ありがとう ・ごめんなさい ・お先にどうぞ ・○○さん ・すごいね ・～してもいいですか	・「まほうの言葉」について考えることを通して、言葉そのものの持つ意味だけでなく、相手を大切に思う「気持ち」がそれらの言葉にあることに気づかせたい。 ・出てきた言葉を板書し、個人目標を自己決定する際に参考になるようにする。
3. 個人目標を決める。 <div style="border: 1px solid #000; padding: 5px; color: #000080; font-weight: bold;">個人目標を自己決定する。</div>	○「こんな言葉をつかっていたい、こんなことに気をつけて会話したいという目標を立てましょう。」	◎相手を大切にしたり言葉づかいをめざした個人の目標を持つことができたか。 ※目標をカードに記入する際、達成したかどうか分かりやすい具体的な目標となるよう助言する。
4. 本時の学習の振り返りをする。	○「みんなが目標を達成して、クラスがもっともっと明るく楽しくなるといいですね。」	・本時の学習を振り返り、目標達成に向けての意欲が高まるように励ましたい。 <div style="border: 1px solid #000; padding: 5px; color: #000080; font-weight: bold; text-align: center;">自己決定したことを、この後1～2週間取り組む。振り返る。</div>

児童が立てた個人目標の例

- 優しい気持ちで話しかける。
- ～さんと名前と呼ぶ。
- 下学年がまねをしてはいけない言葉を使わない。
- 「どうぞ」や「いいよ」と優しくこたえる。
- ぼくは「がんばったね」と言われるとうれしいから、友達にも言ってあげたい。人がうれしい気持ちになれるようなまほうの言葉をたくさん使う。



安心・安全の学校づくり：ルールの実践

「校内研究通信」

基礎・基本定着部からの提案（岩倉スタンダード）

児童が「当たり前」のことは、当たり前でできる学校は、学力が高い。児童は、安心感のある居心地の良い学校に通うことで、自由に思考を働かせ、学力や人間関係力などの力を伸ばすことができるだろう。

岩倉スタンダードは、児童だけのものではなく、教師のあるべき姿も提示するものである。実践できて初めて価値が出るものである。児童一人一人が伸びゆくために、学校が一つになって取り組んでいきたい。

<登校>

- ・岩倉帽をかぶる。
- ・登校班長は、1年生を始め下級生に気を配りながら歩く。
- ・あいさつは、はっきり聞こえる明るい声でする。

<児童玄関>

- ・傘は丸めて閉じる。
- ・靴は、下駄箱の奥までそろえて入れる。
- ・靴は静かに床に置き、履き替える。

<廊下歩行>

- ・廊下、階段の右側を歩き、すれ違う相手に気を遣う。
- ・みんなが同じことをしたらどうなるかを想像して、声の大きさを考えて、歩く。

<朝の読書>

- ・読書の時間は、席を立たず、本の世界に浸る。
- ・朝の読書の時間は、静寂である。

<朝の会>

- ・日直はきばきと進行し、みんなに聞こえる声で話す。
- ・友達の意見は、話し終わるまで口を挟まないで、最後まで聞く。
- ・スピーチする友達のときどきする気持ちを察し、がんばりを支える態度をとる。

<授業>

- ・開始時刻、終了時刻を指導者、児童ともに守り、45分間授業を当たり前とする。
- ・靴のソールを床にきちんとつけて座る。
- ・筆箱や教科書などは、必要なものだけ机に出し、すっきりとした机上で学習する。
- ・つながらりのある話し方をする。聞いているときは、うなずきや返事など反応を欠かさない。
- ・「〇〇さんの話を聞いて思った」「教科書〇ページ〇行を見てください」など、具体的に分かる話し方をする。

ねらい ◇学校生活の基本の徹底による安心感のある学校づくり
◇全教職員の共通実践

ポイント

○当たり前にしたいことを文章化し、全教職員で確認する

★学校生活のルールには、**基本として当たり前**にすべき内容と、**よりよい学校生活をめざして話し合いによってつくりあげるもの**の2種類があります。研究通信として伝え、全ての教師が意識を高めることで、学校全体のルールへと結びつけています。

安心・安全の学校づくり：登校時の児童生徒観察



〇〇さん。
おはよう。

ねらい ◇児童生徒理解
◇いじめや不登校の未然防止

ポイント

- 笑顔で迎え、明るい学校生活の一日をスタートする
- あいさつを通して、表情を観察する
- 気になる児童生徒、配慮が必要な児童生徒への温かい一声をかける
- 児童生徒の変化にいち早く気づき、生徒指導担当や学年担任と素早い連携をする

安心・安全の学校づくり：教育相談「児童アンケート」

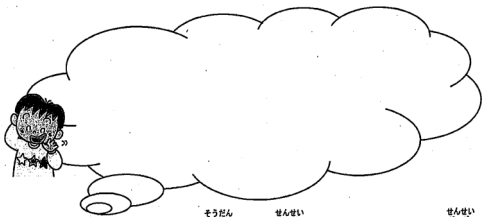
心のかけ橋

こころ はし

姓 名

★ 学校（お家）の生活や学習で、困ったことや悲しいこと、おかしいと思ったことなどを書きましょう。（自分のことだけでなく、周りの友達についても）

★ うれしかったことやがんばっていることを書いてもかまいません。



相談したい先生 先生へ

ねらい ◇児童理解
◇望ましい人間関係の育成
◇いじめや不登校の未然防止と早期発見

ポイント

- 伝えたい相手を選ぶことができ、うれしいことや頑張りも書けるので、書きたい気持ちが高まる
- 悩みや困ったことなど、本音が書きやすい
- 頑張ったことへの先生からのコメントが保護者にも伝わり、児童にとって、ほめられる機会が増える

安心・安全の学校づくり：生活アンケートをもとにした取組

アンケートの各項目の達成率を得点に表し、可視化することで課題が一目で分かり、学級で解決していこうとする意識が高まるきっかけとなります。

取組の流れ

- ①月末に記名式でアンケートを実施する。
- ②各項目を得点化して、合計800点で表す。
- ③得点の低い項目について、学級で話し合いを行い、改善策を考え実践する。

みんなで話し合っ
て意見を出して、
安心して過ごせる
ようにしようね。



子どもと先生が
よりよい学級を
めざします



クラスの問題だから、
自分の事として考え
よう。

担任の取組として

- 気になる児童生徒には、すぐに個別に対応する
- 見えてきた課題を通して学級経営を見直す

子どもの取組として

- 改善策を話し合う
- 友達との関わりを見直す

学校生活のアンケート(月)
() 年 () 組 名前 ()

※次の質問について、あてはまるところに○印を1つつけてください。

質問	1	2	3	4
1 学校や学級は楽しいですか。				
2 みんなで何かするのは楽しいですか。				
3 学習に集中して取り組んでいますか。				
4 学習がよくわかりますか。				
5 なんとなく頭やお腹が痛くて、学校に行きたくない日がありましたか。				
6 落書きをされたり、持ち物をこわされたりして悲しい気持ちになった日がありましたか。				
7 遊びの時間、休憩に加えてもらえず、つらかったり、悲しかったりした日がありましたか。				
8 友だちからそうじや当番の仕事を押しつけられて困った日がありましたか。				



ここを得点化

ここを得点化

改善策



学校が楽しめるような企画をしようよ。励みになる言葉かけも、していこう。

生活アンケートから子どもたちの実態を把握し、教師が早期に手立てを行うことで、いじめの未然防止や早期発見につながります。子どもたち自身が日々の生活を振り返り、その解決に主体的に取り組んでいくことで、絆が深まり、安心・安全な学級へと変わっていきます。